

保存樹に関するパネル展の開催について（報告）

1. 背景と目的

本市では、地域の資源である市内に残る優れた樹木や樹林を保全するため、保存樹等の指定を行っている。しかし、近年は保存樹の指定件数は減少傾向にあり、さらに管理困難等の理由で指定解除の件数も増加している状況である。そこで、保存樹について広く市民に周知することを目的とし、樹木マップに掲載されている保存樹等の写真をパネルにて展示を行う。

2. 実施内容

【展示場所】

ほんぽーと中央図書館エントラス

【展示期間】

令和2年3月5日（木）～令和2年4月9日（木）

【展示する内容等】

○樹木マップに掲載されている樹木・樹林の写真10枚

○9月の審議会で保存樹に指定された西区赤塚の樹木（エノキ）3本の写真

・写真パネルに加え、保全活動を行っている団体の取組内容やドローン動画も展示予定

※展示する写真等は別紙参照

3. パネル展示参考レイアウト図

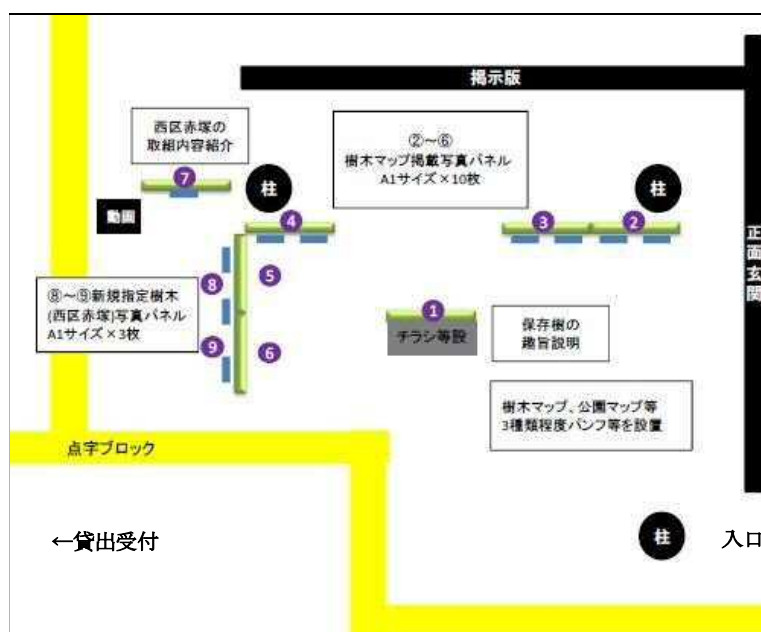


図-1 ほんぽーと中央図書館エントランス概略図

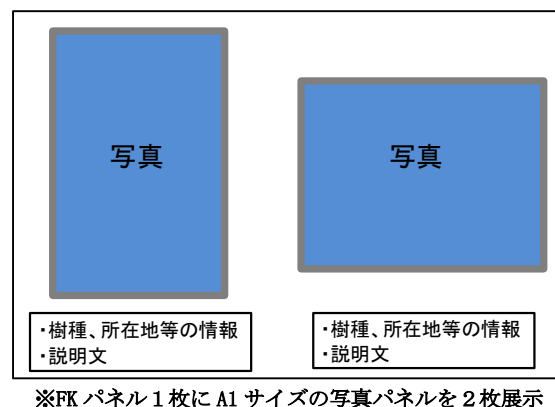


図-2 パネル展示例

パネル展示写真

樹木マップ掲載写真



北区-保存樹293



東区-保存樹149



東区-保存樹林10



中央区-保存樹96



中央区-保存樹207



江南区-保存樹171



秋葉区-保存樹226



南区-保存樹249



西区-保存樹18

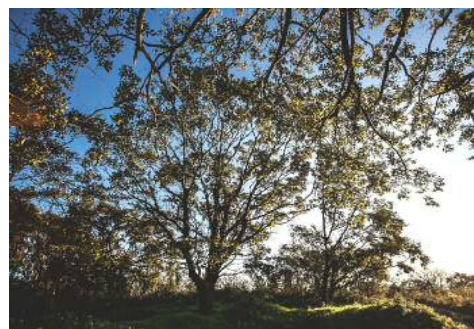


西区-保存樹89

新規保存樹指定写真



西区-保存樹390



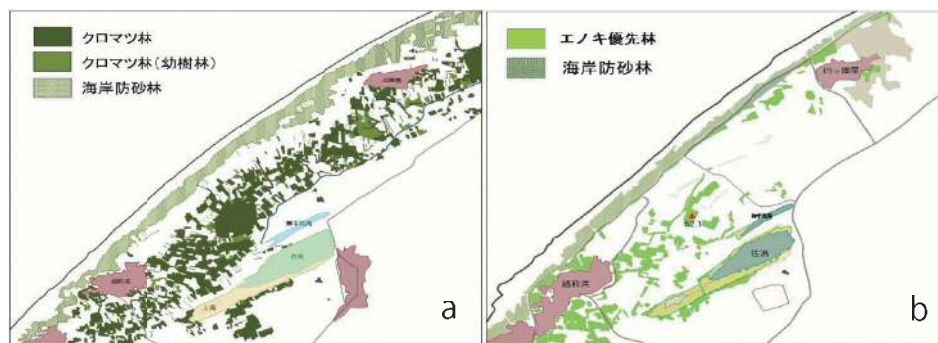
西区-保存樹391



西区-保存樹392

新潟市西区赤塚のエノキ林

新潟砂丘遊々会*



1948(昭和23)年

2005(平成17)年

図1 赤塚地域のクロマツ林からエノキ林への樹種変化とその分布



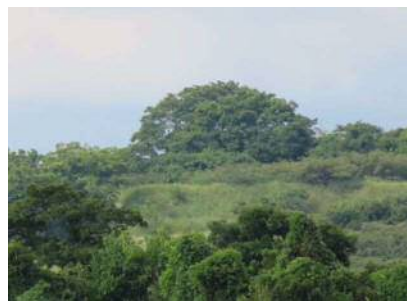
右中景の高まりが2004年ではクロマツ林であるが、2015年にはエノキ林となっている。

写真1 クロマツ林からエノキ林への景観変化



「オオエノキ」

赤塚エノキ林の主。王者の風格。



「気になる樹」

水鳥・湿地センターからみると2本の保存樹が丸いこんもりとした1本の樹に見えます。なんと新幹線の車窓からも見えます。

保存樹には愛称があります！

砂丘のエノキ林

赤塚地域の砂丘上にはかつてクロマツ林が広がっていました(図1 a)。

しかし、現在、クロマツ林は完全に消滅し、ほぼ全体が落葉広葉樹であるエノキ林(優占率85%以上)に置き替わっています(図1 b)。調査の結果、この地域のエノキは最大級の直径・樹高をもつものでも樹齢が36年前後で、40年を超えないことがわかりました。

このことから、赤塚地域ではクロマツ林からエノキ林への置換は1980年前後に生じたと考えられます。クロマツ林は植林による人工林ですが、エノキ林は、クロマツの衰退後に自然更新により定着した自然林であることが大きな特徴です(写真1)。

貴重な自然

落葉広葉樹林はクロマツなどに比べて、種の多様性が高く、昆虫類の食用として、鳥類のねぐらや繁殖場所としての機能をもつほか、特にエノキはオオムサキ**、ゴマダラチョウ、ヒオドシチョウ、シータテハといった蝶類の食草としても重要な樹木です。新潟市内の砂丘地において、こうしたエノキ林がみられるのは、赤塚地域のみであることから、新潟市にとっても非常に貴重な自然といえます。

エノキ林の保全

街中での保存樹はその1本に価値がありますが、赤塚地域のエノキ林は、林地が分断されているとはいえ、林全体を保全することで森林の生態系として初めて意味を持ちます。今回は、このエノキ林の中から容姿の立派さ、樹高・太さなどの点において特に際立ったもの3本が新潟市の保存樹として新たに登録されましたが、この3本のみが大事なわけではありません。もっと大事なのは「赤塚エノキ林」とでも言うべき、エノキ林全体とその保全です。

砂丘遊々会では、今回登録された3本のエノキを赤塚地域のエノキ林の象徴的な存在として捉え、保全活動を続けていきたいと考えています。

* 新潟砂丘遊々会は、西区赤塚地域の方々と新潟国際情報大学の教員有志とが一緒になって、新潟砂丘の魅力と価値を、ウォーキングを通じて多くの人たちに発信するために結成されました。

** 本地域においては未確認。